

## 井上博士の漢字の「神」の字と日本の

「カミ」の語の關係に就きて

加 藤 玄 智

時間が來て居ますが、もう一つ附加へて置き度いのは、井上博士から出ました支那の神は稻妻から來たと云ふ御説に就てであります。日本の「カミ」と云ふ考がさう云ふ稻妻のやうな神の字で現はすことが出來ないかどうかと云ふことです。勿論日本では矢張天皇より下々のエライ人間まで「カミ」であります。其内には又「カミナリ」「ナルカミ」と云ふのがあつて、之は支那の神即ち稻妻に當るのであります。さうすれば日本の「カミ」と云ふ概念の一方面は支那の神の字で言ひ現はし得ると思ふ。是れ日本書紀が日本の「カミ」を云ひ現はすに神の字を以てした所以であるを考へられはしますまいか。

そこで支那と日本の「カミ」の觀念が或る方面では電氣の電の字から來た神の字を當て或は他の方面からは又人間を「カミ」とする爲に人間の人の字を書き或は又靈魂の靈の字を書くこと云ふやうなことになつて居るのであるまいかと考へられるのであります。一寸卑見を附け加へて置きます。